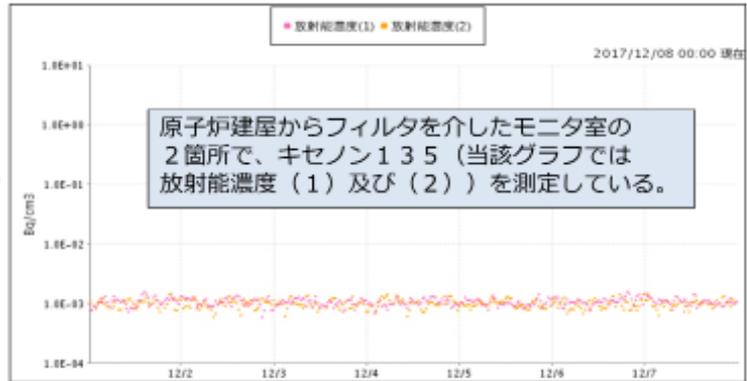
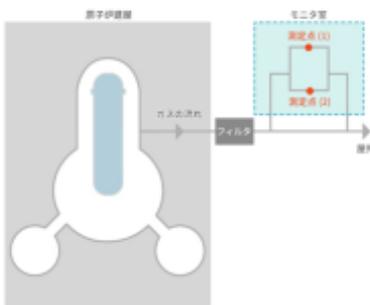


■ 希ガスの発生量



■ 耐震、耐津波への対策

東日本大震災と同規模の地震や津波、更にはそれ以上の規模の地震が発生したとしても、原子炉建屋など、重要な建物については倒壊しない健全性がコンピューター解析などにより確認されています。

緊急時の電源確保
電源喪失時に備え、電源を多様化し、「電源車」・「ガスタービン車」なども用意しています。緊急時には、この車から注水設備に電気を送ります。

注水訓練の様子 電源車 消防車

津波が到達しない海拔高台エリアに電源車等のバックアップ電源や、消防車等の注水手段を用意しています。



仮設防潮堤(出典：東京電力HPより)

<再臨界について>

臨界（核分裂反応が連鎖的に発生、持続する状態）に達すると、キセノン135などの「希ガス」が突発的に増加します。東京電力福島第一原子力発電所では、希ガスの発生を24時間常に監視していますが、現在では希ガスの発生量は安定していることから、再臨界に至っていないと言えます。一方で、再臨界が万が一発生した場合に備えて、臨界時に核分裂を抑制するためのホウ酸水設備も設置されています。

<地震や津波に対する対策>

東日本大震災と同規模の地震や津波への対策として、アウターライズ津波防潮堤の他に、建屋に津波が侵入しないよう、建屋開口部に閉塞工事を進めると共に、津波が到達しない高台のエリアに電源車等のバックアップ電源や、消防車等の注水手段を用意しています。

本資料への収録日：平成30年2月28日

改訂日：平成31年3月31日